

# 校外組織と学校における野外観察パートナーシップの構築

- ジオ×エデュケーションと都立武蔵高等学校附属中学校における野外観察の企画から実践 -

○北山智暁（海洋研究開発機構） tkitayama@jamstec.go.jp  
 飯田和也（駒場東邦中学校・高等学校）、小森次郎（帝京平成大学）  
 宮里康郎（一橋高校通信制）、岩淵寛（都立武蔵高等学校附属中学校）  
 小松原禎之（都立武蔵高等学校附属中学校）



## はじめに

自然に対する理解を深め創造性や知的好奇心の育成などにもつながるとされる野外観察授業が、近年大幅に減少している。その原因として、学校での準備実施のための時間や予算的措置の困難さ、地学を専門とする教員が毎年減少していることなどが指摘されており、抜本的な改善のためには、学校のみならず校外のリソースを最大限活用する必要があると考えている。

そこで、ジオ×エデュケーションでは、野外観察授業を実施することが容易ではない学校に対し、必要な知識や教材、人材を提供することで野外観察授業の実施を支援する取組み「**野外観察パートナーシップ**」を構築し、校外組織と学校の連携による野外観察授業の企画から実践までを行ったので報告する。



- ◆ 2012年4月発足
- ◆ 都立大学附属高校（現・桜修館中等教育学校）の地学巡検から発展
- ◆ 野外観察の機会を多くの生徒に提供するため、学校現場と連携し実施校の実情に合わせ野外観察に必要な「know-how」「人材」「教材」の提供・サポートを行う非営利団体として活動を開始
- ◆ 地球科学を専門とする（&熱い思いをもつ）研究者、技術者、教員、大学院生が最先端の地球科学&野外観察スキルを提供
- ◆ 野外観察授業における教材開発&指導方法の研究
- ◆ 幅広い世代への野外観察の機会提供（生涯学習）

## 野外観察パートナーシップ

野外観察授業を実施することが容易ではない学校に対し、校外組織であるジオ×エデュケーションが必要な知識や教材、人材を学校に提供することで野外観察授業の実施を支援する取り組み。

**Geo Education**

**学校での野外観察授業を増やしたい**

地球科学の専門知識を持つ多彩な人材  
豊富なフィールドワークスキル  
野外観察教材



**学校**

**野外観察授業をやりたいが経験や時間が無い**

総合的な学習の時間を有効活用したい  
生徒へ新しい体験をさせたい  
野外観察の知識の向上

## 野外観察授業の企画から実践

野外観察パートナーシップの下、都立武蔵高等学校附属中学校とジオ×エデュケーションは、実際に野外観察授業を企画し実践することで、学校の校外組織に求める支援の形を把握するとともに、効果的な支援についての検討を行った。

- 概要
  - 実施校：都立武蔵高等学校附属中学校
  - 特色：理数推進校の認定校。自然・人間・社会に関わる内容を総合的に扱い自ら課題を見つけ解決できる力を育成する「地球学」を設定。
  - 野外観察授業の位置付け：中学校理科の活動（日本学生科学賞や科学の甲子園等と同じ）に設定
  - 参加選択：自主参加型
  - 事後課題：班ごとの壁新聞の作成と発表

- 野外観察授業を効果的に進めるための工夫
  1. 観察テーマ等は校外組織のパッケージ化されたものを学校が選択することで教材準備等の負担の軽減が可能
  2. 予算は参加費を生徒より集める形にすることで、学校の年度予算の制約を受けず自由度が向上
  3. 校外組織の人材を活用することでインストラクターの確保が容易に可能
  4. 交通手段や工程管理は旅行会社に依頼することで教員及びインストラクターの管理コストを低減することが可能
  5. 1班少人数体制とすることで能動的な観察を生徒自身に促す

表 都立武蔵高等学校附属中学校における野外観察実績

開催年	参加者数(学年数)	参加割合	巡検コース	参加費
2012年	90名(240名)	38%	埼玉長瀨	4000円
2013年	90名(240名)	38%	神奈川城ヶ島	4000円
2014年	70名(240名)	29%	埼玉長瀨	4500円
2015年	-	-	神奈川城ヶ島	-

のべ250名 平均35%

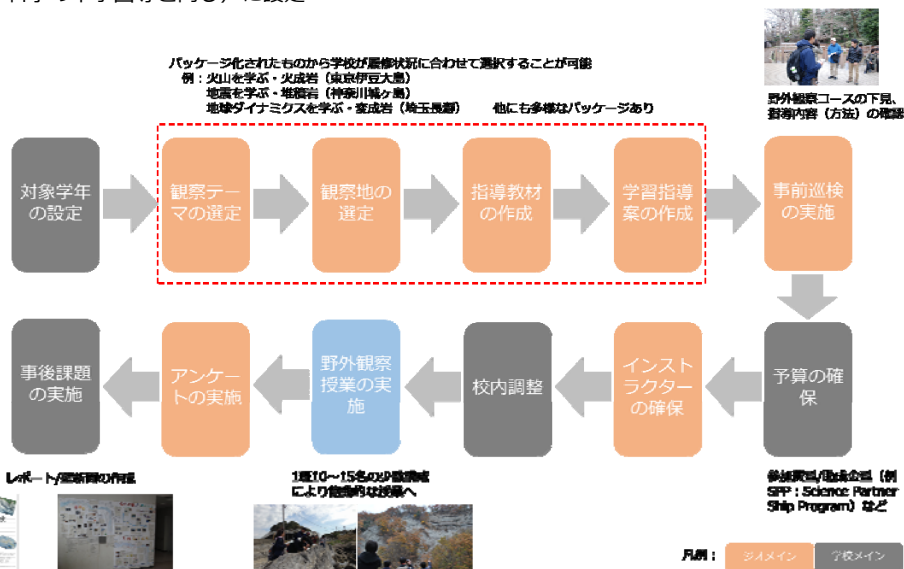


図 野外観察授業の企画から実施までの過程



野外観察授業と一緒に検討してくれる学校、ジオ・エデュケーションのメンバーとして活動に参加したい方を広く募集しています。活動へのご質問・お問合せはお気軽に！

✉ info@geoeducation.jp

ジオ・エデュケーション

検索